

第
42
回

ぴあフィルム フェスティバル

PFF
PIA FILM FESTIVAL

2020

SEKAINITODOKE!!!



第42回

PFF
PIA FILM FESTIVAL

公式カタログ

[コンペティション部門] PFFアワード2020

PFFアワードは1977年に「映画の新しい才能の発見と育成」というテーマのもと始まり、自主的に映画を生み出す多くの決意と熱意に動かされ、改良を重ねてきました。平成生まれが中心となりデジタル制作一色となった本年は、480本の応募から17本を選入作品としてスクリーン上映します。上映後は、客席との対話を設けます。個人から生まれた映画が見知らぬ人へ、より広い場所へと広がっていく時間に、是非ご参加ください。

PFFディレクター 荒木啓子

〈PFFアワード2020 入選作品決定までの流れ〉

「PFFアワード2020」は、2019年3月22日以降に完成した作品を対象に、2020年2月3日～3月24日の期間、公募しました。そうして集まった480の作品を、PFFディレクターを中心に、映画監督、ライター、劇場スタッフ等からなるセレクション・メンバー16名で拝見しました。

「1作品を最低3名が途中で止めることなく完全にみる」というルールのもと、3月より「1次審査」がスタートしました。本来であれば、5月にメンバー全員が集合して、各人の推薦作品を討議する「1次審査会議」を行うのですが、コロナウィルスの感染拡大防止のため、今年は初のオンライン会議を実施し、「1次通過作品」が絞られました。

その「1次通過作品」を、セレクション・メンバー全員がみて、全員が集まった「2次審査会議」は、換気や消毒、マスク着用など感染防止対策に努めながら、2日間に渡り、個々の作品に対する考えを出し尽くしました。そこから最終的なプログラミングはPFFディレクターに委ねられ、入選作品が決定しました。

作品紹介執筆：上條葉月

PFF Award

セレクション・メンバー

荒木啓子 PFFディレクター

大久保 渉 ライター／編集者／パブリシスト

小原 治 映画館スタッフ

上條葉月 映画館スタッフ／字幕翻訳者

木村奈緒 フリーライター

久保田ゆり PFFスタッフ

長井 龍 レコード会社社員

中野弘基 作曲家

仲本拓史 映像作家

中山雄介 PFFスタッフ

新谷和輝 ラテンアメリカ映画研究者

原 武史 レンタルビデオ店スタッフ

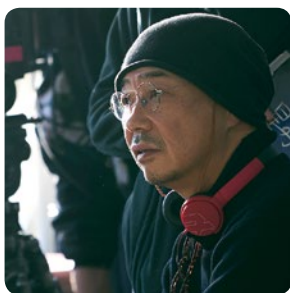
森川和歌子 映画人材育成事業スタッフ

安川有果 映画監督

矢部紗耶香 ライター／編集者

山中瑤子 映画監督

最終審査員 ※敬称略。五十音順



大森立嗣

Tatsushi Omori

映画監督・俳優

1970年生まれ、東京都出身。2001年、プロデュースと出演を兼ねた奥原浩志監督作『波』が第31回ロッテルダム国際映画祭最優秀アジア映画賞“NETPAC AWARD”を受賞。その後、荒戸源次郎監督に師事し、『赤目四十八瀧心中未遂』(03年)の参加を経て、05年『ゲルマニウムの夜』で監督デビュー。『さよなら渓谷』(13年)で、第35回モスクワ国際映画祭審査員特別賞を受賞。近年の主な監督作品に『光』(17年)、『日は好日』(18年)、『母を亡くした時、僕は遺骨を食べたいと思った。』『タロウのバカ』(19年)など。『MOTHER マザー』が現在公開中。最新作『星の子』は10月9日より公開。



齊藤 工

Takumi Saitoh

俳優・映画監督

1981年生まれ、東京都出身。01年に俳優デビュー。近年の主な出演作に『MANRIKI』(企画、プロデュース、主演/19年)、『ラタクに恋は難しい』『8日で死んだ怪獣の12日の物語』『糸』『孤独な19時』(20年)など多数。公開待機作に『シン・ウルトラマン』(主演/21年)がある。齊藤 工名義でFILMMAKERとしても活躍し、初長編監督作『blank13』(18年)では国内外の映画祭で8冠を獲得。企画・原案・脚本・撮影・写真・声・監督を務めた『COMPLY+-ANCE』(20年)が第23回上海国際映画祭(SIFF)インターナショナル・パノラマ部門に正式招待。監督作『ソッキ』が21年公開予定。劇場体験が難しい地域の子供たちに映画を届ける移動映画館『cinéma bird』を主催するなど活動は多岐にわたる。

PFFアワード2020各賞

最終審査員が選ぶ3賞5作品

- ▶ **グランプリ** (副賞100万円)
映画監督として最も期待したいつくり手に贈られます。
- ▶ **準グランプリ** (副賞20万円)
グランプリに迫る才能を感じさせるつくり手に贈られます。
- ▶ **審査員特別賞** (3作品) (副賞10万円)
無視することができない才能を感じさせるつくり手に贈られます。

受賞作品の上映あり!

- 🕒 9/26 [土] 14:00~ 準グランプリ受賞作品上映
- 🕒 9/26 [土] 17:30~ グランプリ受賞作品上映

PFFオフィシャルパートナーが選ぶ賞

- ▶ **エンタテインメント賞** (ホリプロ賞)
作品の優れたエンタテインメント性に対して贈られます。
- ▶ **映画ファン賞** (ぴあニスト賞)
一般審査員による賞。「映画館で見たい」才能に対して贈られます。

観客が選ぶ賞

- ▶ **観客賞**
観客の人気投票により、最も高い支持を得た作品に贈られます。

*各賞受賞者にはPFFスカラシップへの挑戦権が贈られます。

2020 Selected 17 Films

PFF Award Competition 2020 Juries



樋口泰人

Yasuhito Higuchi
プロデューサー

1957年生まれ、山梨県出身。ビデオ、単行本、CDなどを製作・発売するレーベル「boid」を98年に設立。2008年より総合プロデュースを手掛ける「爆音映画祭」を全国で展開中。20年、より小さな動きと声を伝える新レーベル「Voice Of Ghost」を立ち上げた。著書に「映画は爆音でささやく」(boid/10年)、「映画とロックンロールにおいてアメリカと合衆国はいかに闘ったか」(青土社/99年)など。近年の主な配給作品に「遊星からの物体X」「ワンス・アポン・ア・タイム・イン・ザ・ウェスト」がある。『VIDEOPHOBIA』(宮崎大祐監督)、「ジオラマボーイ・パノラマガール」(瀬田なつき監督)の公開を控えている。



平松 麻

Asa Hiramatsu
画家

1982年生まれ、東京都出身。油彩画を主として展覧会での作品発表を軸に活動する。自身の体内に実在する景色を絵画にし、「雲」をモチーフに据えた心象風景を描く。現在、朝日新聞夕刊連載小説、柴田元幸新訳「ガリバー旅行記」の挿絵を担当中。村上春樹・アンデルセン文学賞受賞の講演テキスト(『MONKEY vol.11』SWITCH PUBLISHING/17年)、穂村弘・書籍(『きっとあの人は眠っているんだ』、穂村弘の読書日記)河出書房新社/17年)、三品輝起・書籍(『雑貨の終わり』新潮社/20年)など挿絵も手掛ける。マッチ箱に絵を描くシリーズ「Things Once Mine かつてここにいたもの」も発表中。



古厩智之

Tomoyuki Furumaya
映画監督

1968年生まれ、長野県出身。『灼熱のドッジボール』(92年)がPFFアワード1992でグランプリを受賞し、第8回PFFスカラシップ作品「この窓は君のもの」(95年)で長編デビュー。同作で第35回日本映画監督協会新人賞を獲得。『ロボコン』(03年)で日本アカデミー賞脚本賞にノミネートされ、続く『さよならみどりちゃん』(05年)では仏ナント三大陸映画祭主演女優賞&準グランプリを受賞。主な作品に「ホームレス中学生」(08年)、「武士道シックスティーン」(10年)、「また、必ず会おう」と誰もが言った。」(13年)など。最新作「のぼる小寺さん」が公開中。

『パンク』

2020年/44分

監督：鈴木順也

出演：稲葉欽喜、一柳直之、西本あんずex.桃、岡崎勇太、見谷優雄

PFF Award 2020

🕒 9/12 [土]
11:00～

🕒 9/18 [金]
15:15～

A
program

作品 紹介

パンクしているのは自転車か、俺かお前か、それとも……

昨日も今日も自転車がパンクしている。誰の仕業か突き止めようとするトキオだが、ネット上のやりとり、駐輪場の女、自転車屋のオヤジ、全てが疑わしく思えてくる……。トキオに見えている世界に引き込まれ、圧倒される！

推薦文

トキオは豚足をむさぼりながら誰かが来るのを待っている。目がイっている。こんな人間とは街で絶対会いたくない。しかし映画はそんな人間の存在をいつも求めている。トキオは映画の主役になるべくしてなっている。映画は彼のオブセッションにとことんつきあう。画面は世界の奥行きや広がりを消去してトキオの全部になる。そこに現れた赤いヒールの女。サドルに鎮座するタマゴサンドウィッチ。中心にいるトキオとそれ以外の全体が奇形のユニバースを形成していく。独自の文体。自主映画の魅力。大好きな一本。

小原 治 映画館スタッフ

Q&A

なぜこの作品をつくろうと思ったのでしょうか？

これが20代ラストの作品！ になると思い、それに自分自身が相当納得できるものにしたいと思いました（しかし30は超える令和にはなるので、撮影時にはそんなものどうでも良くなっていました）。生きてきて得た感触、友達と感じたものを入れて「パンク」を“映画”にすると決め、そこに「稲葉欽喜」という若者と出会ったことによって現実につくろうとなりました。

映画をつくって、良かったことは何ですか？

出会えた人と光景がよかったこと、よく分かんなかった俺自身もつくことで分かったこと、そして俺たちの間にあるエネルギー、全然わかりませんけど、その片鱗のようなものに触れたとき、ガッツポーズしてます。あともうちょい映画を好きになったことです。休みの日に、藤沢から東京の映画館なんて行かなかったんじゃないかなと思います。その時間に出会えたことが乾杯です。



監督 鈴木順也

すずき・じゅんや／1988年生まれ、神奈川県出身。中学3年生の時の授業で、個人課題研究のテーマに「映画」を選んだのをきっかけに、カメラを手に取る。桜美林大学映画学科入学後、自主映画制作にのめりこむ。現在は、横浜の「シネマ・ジャック&ベティ」勤務。

🎬 最も影響を受けた映画監督
ジョージ・ルーカス



『霞姫霊異記』

2020年/57分

監督・脚本・撮影・編集・録音：高階 匠

音楽：澤田栄一

出演：小林武志、宮内希奈香、関 直軌、石川大輝、小山駿助

PFF Award 2020

🕒 9/12 [土]
11:00~
🕒 9/18 [金]
15:15~

A
program

作品 紹介

不思議な伝説と住民たちが誘う、オフビートな冒険物語

旅行で訪れた島で恋人が土偶になってしまった！再び島に戻った小林は、島の人々と共に祟りを解くため奔走する。島の人々の佇まいや会話の隅々に不思議な魅力が詰まった作品。小林は祟りを解くことができるのか？

推薦文

人々が土偶になってしまうという呪いをめぐる冒険譚であるが、この映画の最大の魅力はきっと、伝説の舞台である島に住む登場人物たちだ。旅先で恋人が土偶になってしまった！という突然の始まりに驚くのもつかの間、続くオフビートな島民の日常にジワジワと心惹かれていった。会話や些細な触れ合いの中ににじみ出る監督のユーモアや温かみ。お節介で魅力的な島の人々はまるで本当にそこで生きているようで、主人公が誰かと出会うたびに、気づけば観ている私も友人が増えたかのような感覚になっていた。みんなにまた会いたいなあ！

上條葉月 映画館スタッフ/字幕翻訳者

Q&A

なぜこの作品をつくろうと思ったのでしょうか？

現代日本を舞台に、際立った能力や特別な才能を持たない人間を主人公とした冒険物語が出来ないかと思い、つくり始めました。タイトルの元にした「日本霊異記」にこうした話は無いのですが、「霊異」に翻弄される人間の様子に通じるものを感じ、このような題名にしています。前回は17分の短編だったので、今度はより長いものをつくってみたいと思ったのも動機の一つでした。

映画をつくって、良かったことは何ですか？

特に良かったことはありませんが(笑)、映画をつくることは楽しいので今後も続けていきたいと思っています。今までにいくつかの自主映画をつくってきましたが、全く人に観てもらえる機会を得られなかったものも多く、今回のように上映の機会を頂けた時は本当に嬉しく幸せに思います。今後も多くの人に観てもらえるような作品をつくりたいです。

監督 高階 匠

たかしな・たくみ/1989年生まれ、東京都出身。早稲田大学文学部入学後、映画研究会で映画の制作を始める。現在は映像制作会社で働きながら、自主映画をつくっている。前監督作の「Good bye, Eric!」がPFFアワード2018に入選。



最も影響を受けた映画監督
金子修介



『タヌキ計画』

2020年/41分

監督・脚本：関 郁幸

編集：河喜多恵、黄 愛恩 撮影：藤原俊太 プロデューサー：金井もも子

出演：ユッキーレ、藤田恵美、七瀬真生子、渡辺 理、クワン

PFF Award 2020

🕒 9/12 [土]
18:30～

🕒 9/17 [木]
11:00～

B
program

作品 紹介

在日外国人とともに暮らす、現代日本へ問いかける寓話

日本人に「化ける」ための違法薬物「タヌキ」。ベトナムから出稼ぎに来たタンヤもこの薬で日本人として生活し始めるが、次第に母国の記憶を失っていく……。在日外国人の生きづらい現実をおとぎ話として描いた異色作。

推薦文

映画には世界を変える力がある。本作もそのひとつなのだと思う。ファンタスティックでリアリティック。おなかじゃなくて頭のなかの価値観がぼんぼこぼんぼこ叩かれる。ある種の積年の想いが感じられる制作の初期衝動。「どうしたら伝わるの?」と、創意と熱意が溢れる設定に挑んだ映像表現から目が離せなかった。人の心は見た目じゃ分らない。登場人物たちが隠れて「タヌキ」薬を塗布する姿に様々なことを想う。そして彼らの本心を知るその時、自分とは? 社会とは? 劇場を出た後も考えさせられる問いが浮かび上がった。

大久保 渉 ライター/編集者/パブリシスト

Q&A

なぜこの作品をつくろうと思ったのでしょうか?

文化や技術が世界中で人気を博した日本、その魅力に引きつけられ、他国から「ジャパニーズドリーム」を実現しに来た外国人たち。けれど今の東京は色んな人種が集まっている、すこし不協和音が混じったトウキョウ。馴染もうと、自分の息を殺すぐらい頑張っていて、それでも諦めたくない。まるで高畑勲さんの『平成狸合戦ぽんぽこ』だ、ただし20世紀は大自然と人類の戦い、21世紀は、人種と人種の争いだ。

映画をつくって、良かったことは何ですか?

この情報爆発な時代の中で、映像はやはり一番パンチが効くメディアなんじゃないかと思いました。自分が感じたことを画に転換して、どこかの誰か一人と共感できれば、それだけで十分です。映画はまるで虫眼鏡のように、社会で起こったことを拡大して検証する。世間の見苦しいことをパッケージングして、誰でも観られるようにするのは、映画の責任なんじゃないか……伝えたいことを最も伝えやすい手段で世の中に伝える。



監督 関 郁幸

ちえ・ゆしん/1995年生まれ、アメリカ出身。2018年に台湾から日本へやって来て、自主映画制作を始める。現在は、東放学園映画専門学校で監督や美術について学ぶかたわらで、テレビ番組のサブディレクターとしても働いている。



最も影響を受けた映画監督
荻上直子、寺山修司



『LUGINSKY』

2020年/63分 監督・原作・脚本・音楽・演出：haiena

コラージュ・アニメーション・編集・演出・エフェクト：ジャン＝ピエール・フジイ

フォトグラフ・撮影：夏色インコ ドローイング・台詞テスト：あすてか

出演：大谷修久、水田真央、haiena(以上 声の出演)、こぐちゆみ(ムシェットフォトモデル)

作品紹介

「変なものが見える」主人公の視界をコラージュで描く

ある日、幻覚が見えるようになった。そんな彼が幻視に導かれるように密造酒や奇妙な人々に出会い、不条理な世界へ吸い込まれていく。独特の語りとコラージュを用いた映像表現で、観客は唯一無二の世界へと迷い込む！

推薦文

フォトコラージュという、PFFどころか現代映画でも見慣れない手法でつくられているにも関わらず、主人公の変になった目にはこういう景色が見えているのだ、と思わせてしまう世界観の強度に圧倒された。彼が酩酊しているのか、それとも見ている私が酩酊させられているのか、どこが終わりか分からないまま不条理の連続に吸い寄せられてゆく。カフカやバロウズ、あるいは西海岸のドラッグカルチャーなどが頭をよぎりつつ、見終わった後、もしかしたら私もあの酒場に迷い込む日がくるかもしれないと思いながら、現実の渋谷をさまよった。

上條葉月 映画館スタッフ/字幕翻訳者

Q&A

なぜこの作品をつくろうと思ったのでしょうか？

どん底アングラ作家(トラックメイカー、作家)として、就職氷河期世代として、世間のかつてを、そして現在を眺めた時、募るばかりの虚無がある。厭世観、妬み僻み、自尊心の荒廃、犬も喰わねえ中年の寂寞、焦燥、何をどうしても這い上がれないこと、こうした混乱を出鱈目な物語に、そいつを相棒のコラージュ作家ジャン＝ピエール・フジイによる数百枚の絵にねじ込んで映画にしている、と思いついたのが一年と数か月前だったかしら。

映画をつくって、良かったことは何ですか？

全編を通してコラージュ画で構成され、おそらくは共感や感動を寄付けぬような、大袈裟で執拗な皮肉やら風刺やらの垂れ流しである今作『LUGINSKY』が、こうして評価される機会を得られたこと、そして、報われるかどうかではなく、主流ではない新しい試み(制作)に無心で挑んだこと、手前自身のしくじりもあるけれど、ろくでもない成り行きに陥るばかりの僕にとっては素晴らしい体験の他ありません。なんてね。

PFF Award 2020

🕒 9/12 [土]
18:30～

🕒 9/17 [木]
11:00～

B
program

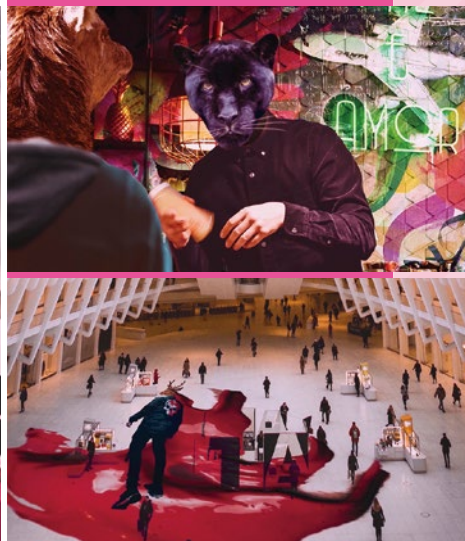


監督 haiena

はいえな／1977年生まれ、東京都出身。音楽専門学校映像科に入学、課題消化のため映画をつくり始めた。卒業後はポストモダニズム文学創作に注力。現在は日当制の肉体労働に就きながら、chill系トラックメイカーとして活動。アートグループJ&H Filmsを結成。



最も影響を受けた映画監督
バルトラン・ブリエ



『もとめたせい』

2020年/30分

監督・編集：矢部 凜

プロデューサー：安井希歩乃 脚本：上田美穂 撮影・照明：西岡 徹 音楽：松原直樹

出演：掛橋七海、前田隆成、田井由美子、中山創太、鈴木卓爾

PFF Award 2020

🕒 9/13 [日]
11:00～

🕒 9/17 [木]
14:30～

C
program

作品 紹介

「変態」から始まる屈折したガール・ミーツ・ボーイ

同級生の男子、馬場からある日突然「ブラジャーを貸して欲しい」と相談された女子高生の相川。誰にも言えない秘密の相談に協力する中で、ふたりは仲を深めていくが……。他人の性に興味津々な新しいヒロイン像に注目！

推薦文

ブラジャーに興味がある、着けてみたいとクラスメイトの馬場に打ち明けられ、戸惑いつつも好奇心を抱く相川。「見られる側」の気持ちを知ってみたいから」と理由を述べる馬場に協力するうちに、相川に別の感情が芽生え始める。男子のフェティシズムの告白には女子の拒絶がつきもの。そんな物語お決まりのパターンを、軽やかに塗り替えていくヒロイン像が新鮮で気持ちがいい。相川は人と違う＝魅力だと知っている。だからこそ、男女の埋められない溝が浮き彫りになってゆく後半の描写は、残酷な程の切実さに溢れている。

安川有果 映画監督

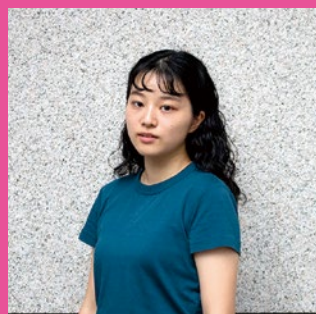
Q&A

なぜこの作品をつくろうと思ったのでしょうか？

人間は他人には見せない別の部分があり、それを孕みながら生活を送っています。その中で、私は女性として生きなければならないことが自分自身を狭くさせていると感じていました。そして私もまた、男性として生きる人たちを狭くさせているのだと思います。性に縛られることに固執する世の中への違和感と、おかしく愛おしい二面性を持つ人間。コンプレックスからくる人間の二面性を軸に、性に着目し作品を撮ろうと考えました。

映画をつくって、良かったことは何ですか？

観てくれた人が自分を取り巻く環境について考えるきっかけになれることは、映画をつくっていてよかったなと思うことです。ひとつの想いを持ってつくっても、羽ばたいた作品はたくさんの意見を纏い大きくなります。それを受け意見を噛み砕くことで、さらに作品に深みが増すことがとても嬉しいので、この先も作品を撮り続けたいと思います。



監督 矢部 凜

やべ・りん/1997年生まれ、滋賀県出身。京都造形芸術大学芸術学部で映画制作を学ぶ。現在は広告制作会社に勤めながら、脚本執筆やPV制作を行う。これまでに『リビングファミリー』(19年)や『あなたと密会』(20年)などがある。



最も影響を受けた映画監督

宮崎 駿



『へんしんっ!』

2020年/93分

監督・企画・編集：石田智哉

プロデューサー・録音：藤原里歩 撮影：本田 恵、壺井 濯、松下仁美

出演：石田智哉、砂連尾理、佐沢（野崎）静枝、美月めぐみ、鈴木橙輔

PFF Award 2020

🕒 9/13 [日]
11:00～

🕒 9/17 [木]
14:30～

C
program

作品 紹介

車椅子とカメラ、人と人の関わりが拡張する、表現の可能性

車椅子に乗った監督が、しょうがい者の表現活動の可能性を探ったドキュメンタリー。映画製作を通じて様々な人と関わりあう中で、多様な「違い」を発見してゆく。周囲の人を巻き込む、彼の映画のつくり方にも注目。

推薦文

障害とは、彼らの身体に柔軟に対応しきれない社会の側にあるバリアを指す言葉だ。『へんしんっ!』を観ていると、そんなバリアが取り払われる瞬間に立ち会うことができる。個と個、自分と他者との間に身体的コミュニケーションを介して共通言語を創り出していく。人間が本来持っている生の対話の豊かさがここにはある。その画面を介して私も動的に変化していく。拡張される世界が私の中にもまだまだ潜んでいることに気付かされる。映画を観ることは、世界でひとりの私と出会うことだ。感動的な体験をありがとう。大変な傑作だ。

小原 治 映画館スタッフ

Q&A

なぜこの作品をつくろうと思ったのでしょうか？

当初、自分がしょうがい者であることを活かして何かをすることには抵抗があった。だが、力強さと想いに満ちた表現をする当事者との出会いで、心が揺れ動く。作品づくりで自分が避けていた問いに当たることで、表現活動がもつ可能性に向き合えるのではという関心が創作動機である。話を聞くことで、自分が今まで触れずにいたものがうずき、葛藤が芽生えた。制作での迷いと自分の心身が変わる過程そのものが作品となった。

映画をつくって、良かったことは何ですか？

映像制作は、目の前の出来事を撮り、それを編集で繰り返し見て、構成することから生まれるものである。自分ではできない撮影、録音を仲間の手で自分の延長のように拡がり形となる。一方で編集では自分一人で画面に向き合うことになる。作品が生まれる過程で、人が集って、一つのものに向かい生まれる力と、撮ったものと一人、向き合う中でこれまで見ていなかったものが自分の中にふと現れる瞬間が味わえるのが魅力だと思う。



監督 石田智哉

いしだ・ともや/1997年生まれ、東京都出身。中学生の頃、自分に合った学習方法としてiPadを紹介され、映像制作に興味を持つ。立教大学入学後、映像制作系のゼミに所属し、ボランティアサークルではバリアフリー映画上映会を行う。本作が初監督作品。



最も影響を受けた映画監督
想田和弘



『追憶と槌』

2020年/8分

監督・脚本・編集：金井啓太

撮影：本藤太郎、吉田真也

出演：金井啓太

PFF Award 2020

🕒 9/13 [日]
18:00～

🕒 9/18 [金]
11:00～

D
program

作品 紹介

独創的な表現でみせる、雪の中に埋まった町への思い

岩手県の「錦秋湖」はかつてダム建設で水没した湯田町という町だった。写真を用いて語られる土地の歴史と、かつての町をおおう雪。二度と戻ってこない町との距離を表現したパフォーマンスが目に焼きついて離れない！

推薦文

雪塊に体躯を打ち付ける、錦秋湖のダムをモチーフにした渾身のドキュメンタリー。過去の出来事と、自分自身の距離を確かめるために、文字通り、体当たりのアプローチをしてみるという愚直な衝動。降り積もった雪に投射された過去もダムも体当たりで壊れはしないが、そこからさらに一步踏み込んで、かつて住民らがかまぐらで歌った歌の拍子と、監督自身の呻き声が重なり合うのは、過去と現在がスクリーンを通して出会ったような感動を覚える。テーマに対して批評的であるだけでなく、ユーモアを持って向き合おうとする姿勢を評価したい。

仲本拓史 映像作家

Q&A

なぜこの作品をつくろうと思ったのでしょうか？

岩手県にある西和賀という町の、「ギンガク」というアートプロジェクトに参加して地域のリサーチをし、住民の方に話してもらった過去の出来事や町の持つ特性をテーマに制作を行いました。そのプロジェクトの終わりではパフォーマンスとして発表しましたが、後に映像にした方が良い作品になると考えたので、後日インタビューなどを改めて撮らせてもらい、この作品ができました。

映画をつくって、良かったことは何ですか？

世界を見る解像度や、メディアの性質に対する感度が上がったことだと思います。同じ事柄を見ても、自分が見えてない側面のことや、その情報の伝わり方について考える習慣がついたり、それらを常に考える必要性がわかるようになってきたと思います。今後も作品を見た人の視野も広げられるような作品をつくり、他人の世界に思いを馳せ合える社会をつくりたいと思っています。



監督 金井啓太

かない・けいた / 1994年生まれ、東京都出身。中学3年生の時に文化祭で友人たちを誘って、初めて映画をつくった。筑波大学入学後、パフォーマンスやインスタレーション作品を制作し、東京藝術大学映像研究科に進学する。現在はゲーム開発に携わる。

🎬 最も影響を受けた映画監督
五島一浩



『頭痛が痛い』

2020年/131分

監督・脚本・編集：守田悠人

撮影・照明：田中丈尊 録音・整音：五十嵐猛吏 プロデューサー・助監督チーフ：砂糖 塩

音楽：大村知也 出演：阿部百衣子、せとらえと、鐘ヶ江佳太、山本華容子、杉山宗賢

PFF Award 2020

🕒 9/13 [日]
18:00～

🕒 9/18 [金]
11:00～

D
program

作品 紹介

現代の死にたい少女たちの切実な叫びが聞こえてくる—

優等生のいくと不登校の鳴海。一見、相入れないふたりが「死にたい」という苦しみを共有し距離を縮めていく……。配信やSNSといった時代がもたらす問題を捉えつつ、生きづらい少女たちの声に真摯に向き合った作品。

推薦文

2018年12月、東京。ネットは衆人環視の監獄と化し、SNSには無数の「死にたい」があふれ、それなのに（それゆえに）たった一人の死を救えず、スマホは人々の孤絶を深め、男と女／大人と子どもの間には依然不均衡な力関係が横たわり、そんな絶望的な状況を尻目に、東京五輪に向けた新国立競技場の建設は進み続ける。守田悠人という傑出した時代の描き手の出現を喜ぶ前に、まずは眼前の現実を直視し、痛みを痛みとして認識することから始めねばならない。完成した競技場を作中の彼女たちに代わって見る私たちは今、どんな世界を生きているか。

木村奈緒 フリーライター

Q&A

なぜこの作品をつくろうと思ったのでしょうか？

2018年の秋頃。工事中の新国立競技場と、奈良県で女子高生が配信自殺を行ったという事件。この二つの題材を今撮りたいと思いました。あと昔テレビでコメンテーターが「手首を切る人は本当に死にたいわけじゃないから、自殺とは根本的に違う」と話していて、周りも神妙な顔で頷いてて。こいつらと一緒に飯食いたくねーなど。「死にたさ」の差を勝手につけて区別したが、一部の大人たちに、中指を突き立てる思いでつくりました。

映画をつくって、良かったことは何ですか？

まず、スタッフと俳優が作品と心掛けてくれたことです。自主映画のパターンとして、監督のワンマンプレイみたいな事って起こりうと思うんですけど、この映画に関してそういう風に感じた事は一切ありませんでした。説明し辛いですが、心中が一番合ってる感じがします。あとは自分の脆さを知れた事。監督をやったのは初めてでしたが、本当に視野が狭い。詰めが甘い。と編集中心度にも自分に呆れました。



監督 守田悠人

もりた・ゆうと／1997年生まれ、愛知県出身。日本映画大学映画学科に入学し、1年次から映画制作を始める。脚本コースを卒業後、就職活動を早々に挫折し、脚本を書き続けている。これまでに執筆した作品に「幸福なLINE」などがある。



最も影響を受けた映画監督
エドワード・ヤン



『遠上恵未(24)』

2020年/26分

監督・撮影・編集・出演：遠上恵未

PFF Award 2020

🕒 9/15 [火]
11:00~

🕒 9/20 [日]
18:00~

E
program

作品 紹介

「あと10日で25歳になる」自分を写したい焦りと衝動！

女優が自身の代表作とすべく自らカメラを回す！ 24歳からアラサーになることへの焦り。今の自分をカメラに収めなければと、自分にしか撮れない姿を求め、さらけ出してゆく。だが、自分が撮りたい「遠上恵未」とは……？

推薦文

もし、遠上監督が男性だったら本作は生まれたでしょうか？ もし男性だったら若さや美貌を保つために、まじない染みた行為を繰り返し、若い自分をカメラに焼き付けておかねばという「焦りにも似た衝動」でカメラを回したであろうか（そのような設定があり得たであろうか）。本作が成立する前提として、そこには男女の圧倒的な非対称性が存在する。若さや美貌を追求するほど日々は精彩を欠き、ひとつの疑問が浮かぶ。「私とは？」。これは、私が私の身体を、私の存在を私の手に取り戻す物語である。遠上恵未は誰のものでもない、遠上恵未のものなのだ。

木村奈緒 フリーライター

Q&A

なぜこの作品をつくろうと思ったのでしょうか？

25歳を迎える頃、よく自分の価値について考えていました。当時、私は会社で「若い女性」という価値しかない気がしており、私から「若さ」が失われる時、何が残るのかと考えては不安になるも、スキルを身につける努力はせず、目上の男性社員に気に入られようとばかりしていました。しかし、そんな自分が嫌になり、この姿をフィクションの力を借りてさらけ出すことで、これまでの自分に区切りを付けるため制作しました。

映画をつくって、良かったことは何ですか？

自分の価値観が偏っていないか、古くはないか、しきりに疑うようになったことです。作品には、作り手の価値観や人となりが見え出すと思っています。また、作品は誰かを傷つけたり非難したりする側面もあるため、作り手である自分の考えは傲慢でないか、今の時代に見せるべきものなのか、あえて見せるならそこに意図はあるのか、繰り返し考えています。



監督 遠上恵未

とがみ・えみ/1993年生まれ、東京都出身。千葉大学教育学部在学中に、現代美術家と協働でビデオアートを制作したことがきっかけで、映像表現に興味を持つ。卒業後に、広告制作会社勤務を経て、ENBUゼミナールに入学し、映画制作を始める。

🎬 最も影響を受けた映画監督
五社英雄



『屋根裏の巳巳己』

2020年/102分

監督・脚本・撮影・編集・音響：寺西 涼

出演：中川原佳晟、長谷川友香、出月 景、寺西 恵、森泉春乃

作品紹介

記憶か現実か？ 生と死のはざまをさまよう怪奇な物語

同棲中のアパートから逃げるように実家に帰ったショウは、繰り返し夢に現れていた中学時代の幼なじみ、ミーコと再会する。だが、どこかおかしい……。不安をあおる独特のカメラとスピード感あふれる編集に魅せられる！

推薦文

夢で見た女の後ろ姿を追いかけて、ひとりの男が地元へ帰るところから思いもよらぬ変転をしていく夢幻探訪記。どのようにしてこの驚くべき傑作が生まれたのか？ すべてのカットが無駄なようにも思えるし、否、こうでしかあり得なかったパーフェクトな映画であるとも言いたい。我々は一体何を見たのだろう。一生に一度撮れるか撮れないか、映画づくりは学校で学べるものではないと強く確信した魔性の102分間。わかりやすいドラマや人間の情動には目もくれない、わたしはこんな快楽を映画で発見したかったのだ！ ああ、取り憑いて離れない。

山中瑤子 映画監督

Q&A

なぜこの作品をつくろうと思ったのでしょうか？

この映画を撮影したのは2018年の夏でした。その年、大学を卒業した僕は初めてフリーターという立場を経験しました。その事は友人や地元の家族との関係にも少しずつ変化を与えました。その状況の中で僕が感じた焦燥や実際に起こったやり取りなどを元に、以前から扱ってきた「他者と自分」、「この世とあの世」のテーマを改めて語り直したいと思い制作しました。

映画をつくって、良かったことは何ですか？

自分の興味を語る方法を見つけられたことです。大学時代に様々なメディアでの表現を模索して行ったり来たりした結果、僕が行き着いたのは映画でした。映画は自分に起こっている状況や自分の中にある混沌とした人間性などを客観視し、具体的に物語として整理出来るメディアだと思っています。

PFF Award 2020

🕒 9/15 [火]
11:00～
🕒 9/20 [日]
18:00～

E
program

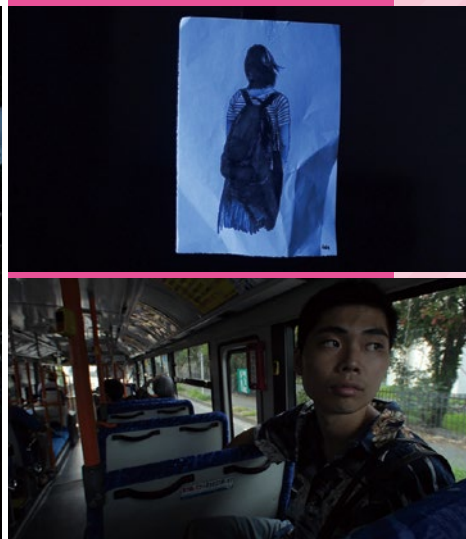


監督 寺西 涼

てらにし・りょう/1995年生まれ、神奈川県出身。東京藝術大学美術学部絵画科在学中に、デヴィッド・リンチ監督の『インランド・エンパイア』に触発されて、自主映画制作を始める。現在は、映画美学校フィクションコースの高等科に在籍している。



最も影響を受けた映画監督
デヴィッド・リンチ



『フィン』

2020年/36分

監督・脚本・撮影・編集：小池 茅

音楽・録音協力：岩出 拓 整音：五十嵐猛吏

出演：河内宙夢、森岡沙妃、半川伸也

PFF Award 2020

🕒 9/15 [火]
15:00～

🕒 9/19 [土]
18:30～

F
program

作品 紹介

日常のような特別なような。25才、ポエジーな誕生日！

京都に滞在中に女の子に声をかけられたフィン。同級生だと言うがよく思い出せないまま、年上の友人と3人で自分の誕生日会をすることに。彼女は誰？ユーモアあるセリフ一つ一つが楽しく、独特のリズムが心地よい！

推薦文

誕生日とは人が存在しているだけで祝福される特別な一日であり、過ぎ去っていく日々を意識させる残酷な一日でもある。フィンが25歳を迎える日、彼が友人と不意に現れた同級生と過ごす時間を、この映画はどこかのホームビデオみたいな親密さでゆったりとのびのび描き出す。彼らの屈託のないやり取りは、忘れてしまった過去や将来への不安を抱きかかえながら、今という未知の瞬間を育んでいく。今ここにしかない表情や感情、光景がぼつぼつ堆積していく。それらが出逢い別れるところに生まれるポエジーをもって、この映画は私たちの時間を祝福している。

新谷和輝 ラテンアメリカ映画研究者

Q&A

なぜこの作品をつくろうと思ったのでしょうか？

毎日が冒険だと感じていたはずなのに、いつからか出会いや経験が波寄せてはすぐ当たり前になっていく、その繰り返しに古びた感傷を抱き鬱屈していましたが、そこに留まるのはダサい、これって振り返ったらある幸せの中に、ある愛おしさの中にいるのかもしれない、じゃあ、いつかの誰かが受け取る記録、手紙としてしたためよう、とつくりました。

映画をつくって、良かったことは何ですか？

熱狂する時代の中であって退屈し続けようと思ったこと。退屈な時間の中であって熱狂を諦めまいと思ったこと。うーん……格好つけすぎか。ほんとは、現在進行形です。好きな映画、好きな音楽、好きな本、好きな人が、増えていくこと。「へえ、知らなかったけど、そんな自分も結構いいじゃん」って自分が増えていくこと。などです。



監督 小池 茅

こいけ・かや/1993年生まれ、東京都出身。中学生の時に、夢日記をもとに初めて映画をつくる。早稲田大学入学後はサークルで、タンザニア留学のち帰国後は映像制作の授業で、またお寺のもとで映画をつくる。現在は会社勤めのかたわら友人たちと撮影を行う。

🎬 最も影響を受けた映画監督
Paz Encina(パズ・アンシーナ)



『MOTHERS』

2020年/63分

監督・撮影・制作：関 麻衣子

撮影・録音・編集：韋 冠男

出演：関 卓司、関 桃子、関 麻衣子、池村かなた、関 ミラソル

PFF Award 2020

🕒 9/15 [火]
15:00～

🕒 9/19 [土]
18:30～

F
program

作品 紹介

カメラを介して向き合う、父そして「3人の母親」との関係

不安定な父と暮らす監督自身が、姉とともに3人の母親に改めて向き合ったドキュメンタリー。家族という逃れられない呪縛。この映画をきっかけに、苦しみと直面しながら揺さぶられる家族の関係を、観客は目撃する！

推薦文

あつという間の63分！セルフドキュメンタリー作品ながら俯瞰的な視点も織り交ぜ登場人物それぞれが複雑な感情を抱えながらも強く生きていこうとする姿を映し出していく。お父さん、お姉ちゃん、おばあちゃん、従兄弟など母とつながる人々を登場させ、カメラがある事で引き出される見所を意識的につくっていく演出力、観る者を常に意識した構成力に魅了されました。自分にとっての映画をつくるんだという監督の覚悟と葛藤が映像からビシビシ伝わりエンドクレジットまで目が離せず、複雑な感情を抱きながら心奪われる事、間違いなし！

原 武史 レンタルビデオ店スタッフ

Q&A

なぜこの作品をつくろうと思ったのでしょうか？

21歳が終わる頃、フェイスブックを通してあるメッセージが届いたことをきっかけに本作をつくろうと思いました。そのメッセージには私を産んですぐにとこへ行ってしまった母からの伝言が書かれていました。その後は映画制作に行動意欲を掻き立てられ、私は母との再会へと動き出しました。今となっては母と本作は切り離すことのできない存在です。

映画をつくって、良かったことは何ですか？

悩む時間も大切な時間なんだと気づくことができたのはとても良かったと思います。『MOTHERS』は家族がテーマということもありナイーブな問題が多く、制作期間を終えてもお私は精神的に不安定な状態が続きました。しかし悩んだぶん映画は面白くなり、悩んだぶん自分は成長してこれた。振り返った今はそう思います。これからも難しいと思うことを沢山して生きようと思います。



監督 関 麻衣子

せき・まいこ/1997年生まれ、東京都出身。日本映画大学映画学科入学後、フィクションとドキュメンタリー映画の作り方を学び、卒業制作として本作を完成させる。現在は報道局に勤めながら、今後『MOTHERS』完全版をつくりあげることを目指す。



最も影響を受けた映画監督
寺山修司



『Fear of missing out』

2020年/36分

監督・脚本・編集・撮影：河内 彰

協力：金子尚景

出演：Yujin Lee、高石 昂、小島彩乃、スニョン、サトウヒロキ

PFF Award 2020

🕒 9/16 [水]
15:00～

🕒 9/19 [土]
11:00～

G
program

作品 紹介

亡くなった人の存在は、どう確かめられるのだろうか

亡くなった友人の音声を発見したユジン、彼女に想いを馳せながら、車を走らす。「ここにいる人」の記憶や言葉によって、「ここにはいない人」の存在が夜の闇の中に描き出される。静かな余韻を残す一晚の出来事。

推薦文

死んだ人とは話せない。だから残された者は想い続ける。インスタ、twitter など、今の時代には人はたくさんの身代わりを残して死んでいく。本作ではボイスレコーダーがその役割を果たすが、レコーダーは本人そのものではなく、断片だ。あなたが消えてしまわないように、ボイスレコーダーを聞き、霊媒師を介して話すことで、皮肉にも故人との大事な記憶が塗り替えられ、失われていく悲しみ。「思い出にもならない今日の出来事。そんなどこかの思い出に私はなる」。印象的な俯瞰の視点で捉えられたこの映画も、未来のどこかの記憶の一つなのだろうか。

安川有果 映画監督

Q&A

なぜこの作品をつくろうと思ったのでしょうか？

私が映画をつくるきっかけの大半は、出演して頂きたい方との出会いがとにかく要で、後はそのとき聴いていた音楽や、日々の生活にどれだけ自分が心穏やかに過ごせるか、というものです。そして制作に際しては、この映画は尊敬の映画にしよう、と思い制作しました。それは出演してくれた方々、協力してくれた方々との関わりのなかで、新たに与えられた付加価値で、自身も予想していないことでした。

映画をつくって、良かったことは何ですか？

これをしていて良かったというのは誰しにもあると思いますが、近年は、例えば好きな人と出会えたことやお気に入りの服を買って嬉しいというような、そういったことと、私自身が映画をつくることは同じだと考えるようになりました。特に、私の映画の目的は自分から遠ざかることなのですが、映画をつくる様々な工程のなかで、それが少しでも叶ったと感じるときは、映画をつくっていてよかったと思います。

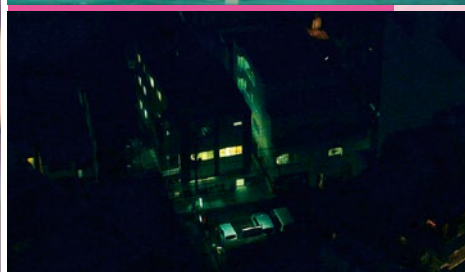


監督 河内 彰

かわち 彰／1988年生まれ、兵庫県出身。アートセンターに勤務し、主に文化や芸術に関わる映像をつくっている。その一方で、作家として映画・映像作品の制作・発表を行う。これまでの作品に『光関係』（17年）、『幸福の目』（18年）などがある。



最も影響を受けた映画監督
アピチャップポン・ウィーラセタクン



『冬のほつれまで』

2020年/67分

監督・脚本・編集：多持大輔

撮影：井坂雄哉 照明：染谷夏海 録音：飯島花衣 衣装：大越味来

出演：青根智沙、北崎京佳、近藤奈保希

作品紹介

自分だけの時間を生きる、そんな少女もいてもいい

朝の教室、昼の売店、放課後の喫茶店。誰とも会話をせず、スケッチブック片手に、ひとりの時間を過ごす女子高生。頑ななような、自由な猫のような少女を、独特な視線で丁寧に描いた作品。きっと彼女に魅了されるはず。

推薦文

寡黙にスケッチを描き続ける主人公にとって、スケッチブックは世界と付きあうためのフレームだ。そのフレームを通じて彼女がつくりあげる自らの領域は、カメラが捉える微細な動きや空間によって補強されていく。同時に、彼女のスペースに隣り合う他者の領域も次第に浮かび上がる。映画が動くのは、彼女のフレーム内に他者の痕跡が刻まれるとき、そしてその痕跡の手触りを彼女がたしかめ、別のフレームへと送り返していくときだ。人と人が互いの領域を触れあわせる、その瞬間にはりつめる震えと期待を、大胆かつ繊細に描ききっている。

新谷和輝 ラテンアメリカ映画研究者

Q&A

なぜこの作品をつくろうと思ったのでしょうか？

私は人間関係で周りの反応を伺い曖昧な発言しかできないと不自由を感じていた。だが人と居ると何故か安心してしまう。その頃昨年の悲慘な殺人事件を知る。報道各社は犯人の幼少期は友達がいなくてと伝えた。だが幼少期の環境と事件は直接関係ないのではないか。むしろ誰かと過ごすより一人で生きる方が難しく、自己を確立した人間こそ信念を貫く美しさがあると考えた。そんな人と出会い私自身救われたいという想いで物語を描いた。

映画をつくって、良かったことは何ですか？

映画をつくる前、現状の環境に甘え誰かに頼ることへの恐怖から制作自体を諦めようと何度も思った。それでも自分の弱さを認め、全てをさらけ出し映画をつくろうと決意した結果、本当に沢山の方々に協力していただいた。大学の友人や企画を通して初めて出会ったキャストやスタッフの方々。「映画をつくる」という一つの旗を掲げて生まれた数多くの出会いは、私にとって何事にも変えがたい宝物となった。諦めず映画をつくって本当に良かった。

PFF Award 2020

🕒 9/16 [水]
15:00～
🕒 9/19 [土]
11:00～

G
program



監督 多持大輔

たち・だいすけ／1995年生まれ、茨城県出身。小学生の頃、兄とホームビデオで遊んだことから映像に興味を持つ。武蔵野美術大学映像学科入学後、初めて映画を監督。同大学院に進学し、自身の制作に身を入れる。現在はフリーランスの映像作家として活動。



最も影響を受けた映画監督
宮崎 駿



『こちら放送室よりトム少佐へ』

2020年/10分

監督・脚本・編集：千阪拓也

撮影・照明：田邊健太 録音：田辺ちひろ 美術・衣裳：伊藤友里恵 音楽：田中亮祐

出演：工藤徳真、荒川ちか

PFF Award 2020

🕒 9/16 [水]
11:00~

🕒 9/19 [土]
14:30~

H
program

作品 紹介

直接会うことのない、テープ/宇宙の向こうのあなたへ

1989年。高校の放送部の星は一人でラジオドラマをつくっている。ある日カセットテープに知らない少女の声が……! 孤独な生徒たちと、宇宙飛行士と管制塔。見えない相手と心を通わす二つの物語が16mmフィルムの上で重なり合う。

推薦文

共犯関係に陥った少年少女が綴る、耽美で壮大なスペースオペラ! 暗黙のうちに始まった甘い蜜月はとびきり贅沢な青春で、この無重力がずっと続けばいいのになって誰もが思う。そんな永遠を封じ込めたかのようなタイムカプセルの扉が、今、ひらく! 虚構と現実が絡み合うファンタジックな本作は、創作の喜びに満ち溢れている。放送室を管制塔に、夜空を宇宙の入り口に変えるように、リアルの世界はいつだってフィクションの世界と連結し、二つの世界は膨らみあって、どんどん無敵になっていく。呼応し合う虚実の果てにある、全能感の一瞬を!

長井 龍 レコード会社社員

Q&A

なぜこの作品をつくろうと思ったのでしょうか?

大学の3年生実習課題の企画が何とも思い浮かばず、締め切りが目の前に迫り、私の企画を待ちくたびているスタッフがいる大学へ電車を使わずに、わざわざ歩いて向かっている時でした。「やばいやばい」と思いながら時間を稼ぐために、ゆっくり歩いていたのですが、ふと真夜中の誰もいない学校で校内放送をする少年の姿が思い浮かび、私の高校時代の放送部での思い出と興味のあった夜間学校という題材が結びついたのがきっかけです。

映画をつくって、良かったことは何ですか?

昔、NHKホールで私のつくった映像作品が上映されるという体験をしたことがあり、その時、大勢の観客の笑い声や歓声がホールに響き渡り、強い感動を覚えました。私の頭の中だけにあった物語や世界が、観客とも共有できたのだと感じたからです。それが原体験となり、その時から、映画をつくって、観客に観ていただくという一連の行為は、監督と観客の間に交わされる一種のコミュニケーションなのではないかと考えるようになりました。



監督 千阪拓也

ちさか・たくや/1997年生まれ、兵庫県出身。高校の放送部で、NHK杯全国高校放送コンテスト創作テレビドラマ部門に出品するため、『学園裁判』(14年)、『その女、スパイにつき』(15年)を監督。映像制作の道を志し、日本大学芸術学部に入學する。

🎬 最も影響を受けた映画監督
庵野秀明、押井 守、宮崎 駿



『アスタースクールデイズ』

2020年/38分

監督・脚本・撮影・編集：稲田百音

出演：杉山 輝、稲田美柚、竹内史生、中村 空、石河 起

PFF Award 2020

🕒 9/16 [水]
11:00～
🕒 9/19 [土]
14:30～

H
program

作品 紹介

現役高校生による、悩みも喜びもリアルな学園群像劇！

地味な転校生と遠足係になった4人。花と花言葉を贈ってくる彼を最初は気味悪がっていた生徒たちだが、彼の言葉に後押しされて、自分に正直に向き合おうように……。個性あふれる生徒たちが魅力的な、心温まる青春と友情！

推薦文

「誰も私を見てくれない」。そのような映画が数多くある中で、監督が選んだテーマは「僕が見ている」。というより「君が見てくれている」か。この映画を観て、安心するのはその懐の深さにあるのかもしれない。そんな監督は先生同士の間で起こるいじめをも描く。当時高校生だった監督の現実世界を見つめる鋭い視線を突然感じ、大人の私たちは恐怖さえ感じるが、そこがこの作品をたんなる青春映画にしていない所以ではないだろうか。花好きな転校生の少年がみんなの心に与える小さな変化、この小さな変化を見逃さないでほしい。

森川和歌子 映画人材育成事業スタッフ

Q&A

なぜこの作品をつくろうと思ったのでしょうか？

近頃特にその大切さが強調される「多様性」という言葉。一人歩きしがちなその曖昧な言葉とそれが示すものはなぜ大切なのだろうか。「いきすぎた個性」は排除され「ちょうどいい個性」がもてはやされる社会の中で、自分の「個性」を受け入れたい自分と受け入れたくない自分が混在するという矛盾を抱える私たちは、その言葉をどのように理解すればよいのか。そのようなことを探っていきたいと思い、この作品を制作するに至りました。

映画をつくって、良かったことは何ですか？

映画制作は常に私に様々なことについて深く考える機会を与えてくれます。物語の中で取り入れたいと思った要素について勉強してみたり、普段ならスルーしてしまうような言葉や行動について考えを巡らせてみたりすることで、毎回新たな視点で物事をとらえられるようになります。また、日常生活で多少嫌なことがあったとしても、映画のネタになると思ったりやり過ごすことができるので、映画制作は私にとって心の支えでもあります。



監督 稲田百音

いなだ・もね／2001年生まれ、東京都出身。小中学生の頃から趣味でアプリを使った動画編集や撮影をしていた。高校で映画制作団体を立ち上げ、『君は真夏のベガだった』（18年）を監督。高校在学中に映画をもう一本つくりたいと思い、本作を完成させた。



最も影響を受けた映画監督
是枝裕和、河瀬直美、宮崎 駿、
ナディーン・ラバキ



『未亡人』

2020年/54分

監督・脚本・撮影・録音・美術・編集：野村陽介

美術：青柳光祐

出演：野村陽介、後藤 匠、戸丸 杏、奥村アキラ

PFF Award 2020

🕒 9/16 [水]
11:00~

🕒 9/19 [土]
14:30~

H
program

作品 紹介

「未だ亡くれない人」ならば、どう生きていく？

芸術家としての志のために、これまで恋愛を捨てて童貞を貫いてきた、美大生の野村。自己愛と他人からの評価のはざま、友人や家族との関係、芸術や宗教観のなかで苦悩する主人公の姿を、俳優である監督自ら熱演！

推薦文

骨と皮のみで作られたその肉体は、静かな闇に横たわり、ひとり思い悩む時を過ごす。狭苦しいその場所で、何か聞いたというのか。薄明るい世界へ引き戻されるように自ら門を開き、宙を見つめる。その表情に曇りはないが、どこか救われていない。己のからだを折り曲げ、這い上がる。そうして彼は我々の前に姿を現わす。映画を観ながら私は、主人公野村に魅了されていた。穢れの無い眼で他者と向き合ってきた彼に物悲しさを感じたが、それでも、「スクリーンで会おう」というそのポジティブな声に、彼を祝福したくなった。

中野弘基 作曲家

Q&A

なぜこの作品をつくろうと思ったのでしょうか？

物語の中にしか居場所がないと思ったからです。何かを表現したくて美大に入り、最初は絵を描いたり、ものをつくったりして、それはそれで楽しかったけれど、何かが足りなかった。心の穴が埋まらなかった。どうにか自分の人生を救えないだろうか、色々と自分に向き合ってみる時間が続いてふと気がつきました。俺は作品をつくりたいんじゃなくて、俺が作品になりたいんだと。

映画をつくって、良かったことは何ですか？

自分はどちらかというと厭世家で、人生ってほんとに徒労だな、どうせいつか死ぬのにな、なんか何しても楽しくないんだよな、とか考えてる斜に構えた性格だけど、口ではそんな事言いながら、映画をつくって、その中で動いてる自分の姿を見て、本当は生きたいんじゃないか、どこかで人生を人間を信じてるんだと嬉しくなりました。また、これは自分が映画で生きていく覚悟を問う闘いでもあったので、完成できて本当によかったです。



監督 野村陽介

のむら・ようすけ/1996年、埼玉県出身。東京藝術大学美術学部デザイン科の4年次に、卒業制作として自身のこれまでの集大成となるものをつくろうと、本作を完成させた。本作が初監督作品となる。現在は、主に俳優として活動している。



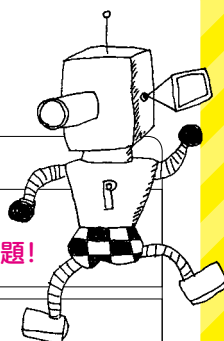
最も影響を受けた映画監督

李 相日、吉田大八、宮崎 駿



「PFFアワード2020」入選作品17本を期間限定で配信!

映画祭会場に行けない方も、日本全国どこからでも、時間を気にせずに鑑賞できます



配信期間

9/12 [土] ~ 10/31 [土]

国内最大級の
インディーズ映画
配信サイト

DOKUSO
ドクソー映画館

おトクにたっぷり観たい方は...

ゴールドメンバー会員 (月額980円) に加入すると **全作品観放題!**

KDDI×ぴあによる
エンタメサイト

UP!!!

お目当ての1本を観たい方は... **1作品 300円**

※auスマートパスプレミアム会員 (月額549円) なら **全作品観放題!**

表示金額はすべて税込み金額

オンラインでも映画祭を楽しもう!

詳しくは



第42回 **ぴあフィルムフェスティバル** オンライン配信プログラム

第42回PFF

検索

ロイ・アンダーソン監督特集の **日本初上映** プログラムと、 第25回PFFスカラシップ作品を**24時間限定で配信!**



配信開始日時



ロイ・アンダーソン監督特集
短編プログラム



ロイ・アンダーソン監督特集
『ギリアップ』



第25回PFFスカラシップ作品
『猫と塩、または砂糖』

9/22 [火・祝] 18:30~

9/23 [水] 18:30~

9/24 [木] 18:30~

チケットぴあの
ライブ配信
サービス

**PIA LIVEC
STREAM**

950円

950円

1,600円

KDDI×ぴあによる
エンタメサイト

UP!!!

950円

**※auスマートパスプレミアム
会員なら500円**

950円

**※auスマートパスプレミアム
会員なら500円**

1,600円

**※auスマートパスプレミアム
会員なら950円**

表示金額はすべて税込み金額

第42回ぴあフィルムフェスティバル タイムテーブル

第42回PFF

検索

Time Table

チケットは前日までの販売／当日券の販売はありません

…ゲスト来場予定

国立映画アーカイブ 開館時間 10:30(9/12～13、15～19、26) 11:00(9/20、22～25)

*開場時間は、上映時間の15分前です。日ごとに上映開始時間が違いますので、ご注意ください。

*やむを得ない事情により、プログラムおよび来場ゲストが予告なく変更になる場合もございます。ご了承ください。

9.12 【土】	OZU	11:00～ PFFアワード2020 ④ 『バンク』 『霞姫霊異記』	14:45～ オープニング 『生きちゃった』 ※上映後、石井裕也監督&キャストによるトーク予定	18:30～ PFFアワード2020 ⑧ 『タヌキ計画』 『LUGINSKY』
	小ホール		13:00～ ロイ・アンダーソン監督特集 『スウェーディッシュ・ラブ・ストーリー』	16:30～ ロイ・アンダーソン監督特集 『散歩する惑星』
13 【日】	OZU	11:00～ PFFアワード2020 ③ 『もともたせい』 『へんしんっ!』	15:15～ ロイ・アンダーソン監督特集 特別上映 『ホモ・サピエンスの涙』	18:00～ PFFアワード2020 ⑩ 『追憶と槌』 『頭痛が痛い』
	小ホール	12:30～ ロイ・アンダーソン監督特集 『愛おしき隣人』	最新情報は、公式サイトをチェック! https://pff.jp/42nd/	
14【月】				
15 【火】	長瀬記念ホール OZU	11:00～ PFFアワード2020 ⑤ 『遠上恵未(24)』 『屋根裏の巳巳己』	15:00～ PFFアワード2020 ⑥ 『フィン』 『MOTHERS』	18:30～ ロイ・アンダーソン監督特集 『さよなら、人類』
16 【水】		11:00～ PFFアワード2020 ⑧ 『こちら放送室よりトム少佐へ』 『アスタースクールデイズ』 『未亡人』	15:00～ PFFアワード2020 ⑨ 『Fear of missing out』 『冬のほつれまで』	18:30～ ブラック&ブラック ～映画と音楽～ 『ソウル・パワー』 ※上映前、ピーター・バラカン氏のトーク予定
17 【木】		11:00～ PFFアワード2020 ⑦ 『タヌキ計画』 『LUGINSKY』	14:30～ PFFアワード2020 ③ 『もともたせい』 『へんしんっ!』	18:30～ ロイ・アンダーソン監督特集 日本初上映 『ギリアップ』
18 【金】		11:00～ PFFアワード2020 ⑩ 『追憶と槌』 『頭痛が痛い』	15:15～ PFFアワード2020 ④ 『バンク』 『霞姫霊異記』	18:45～ ロイ・アンダーソン監督特集 日本初上映 短編プログラム
19 【土】		11:00～ PFFアワード2020 ⑨ 『Fear of missing out』 『冬のほつれまで』	14:30～ PFFアワード2020 ⑧ 『こちら放送室よりトム少佐へ』 『アスタースクールデイズ』 『未亡人』	18:30～ PFFアワード2020 ⑥ 『フィン』 『MOTHERS』
20 【日】		12:00～ WOWOW連続ドラマWをスクリーンで 『夢を与える』 約50分×4話 〈2話上映後、約15分の途中休憩あり〉 ※上映後、犬童一心監督のトーク予定	18:00～ PFFアワード2020 ⑤ 『遠上恵未(24)』 『屋根裏の巳巳己』	
21【月・祝】				
22 【火・祝】	長瀬記念ホール OZU		13:00～ WOWOW連続ドラマWをスクリーンで 『悪党 ～加害者追跡調査～』 約50分×6話 〈3話上映後、約20分の途中休憩あり〉 ※上映後、瀬々敬久監督のトーク予定	
23 【水】		11:45～ ロイ・アンダーソン監督特集 『スウェーディッシュ・ラブ・ストーリー』	15:15～ ロイ・アンダーソン監督特集 日本初上映 短編プログラム	18:30～ ロイ・アンダーソン監督特集 日本初上映 『ギリアップ』
24 【木】		11:45～ ロイ・アンダーソン監督特集 『散歩する惑星』	15:00～ ロイ・アンダーソン監督特集 『愛おしき隣人』	18:30～ 第25回 PFFスカラシップ作品 完成披露上映 『猫と塩、または砂糖』 ※上映前、小松孝監督とキャストによる舞台挨拶予定
25 【金】		PFFアワード2020表彰式 ※チケットの発売はありません。		
26 【土】		11:00～ ロイ・アンダーソン監督特集 『さよなら、人類』	14:00～ PFFアワード2020 準グランプリ受賞作品上映	17:30～ PFFアワード2020 グランプリ受賞作品上映